Techno Medica

2022年3月期
決算説明資料

2022年5月26日

代表取締役社長
實 吉　政 知

目次

Techno Medica

ページ

1. テクノメディカの歴史・主要製品 …… 2– 5

2. 2022年3月期 決算 …… 6–22

3. 2023年3月期業績見通し …… 23–26

4. ・2020年中期経営計画・進捗
・2030長期ビジョン ……27-38

TMC Techno Medica

1.テクノメディカの歴史・主要製品

テクノメディカの歴史・創業35年

Techno Medica

1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
1997年	3月	本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）
1998年	6月	本社第2研究所竣工　⇒ 研究開発部門の充実
2005年	9月	本社第3研究所竣工　⇒ 研究開発部門＋物流の充実
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工　⇒ 生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設　⇒ ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
	8月	横浜SOSiLA港北に物流倉庫の開設
2020年	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売開始
	7月	尿中バイオマーカー測定システムの販売開始
2021年	4月	研究開発体制の強化・組織改正、新製品開発の展示
	9月	新開発　採血受付システム・採血採尿受付システムの発売開始
2022年	2月	自己株式の取得完了（10万株）
	4月	東証「プライム市場」へ移行

テクノメディカの主要製品

Techno Medica

品目別に見た主要製品

	製品名				
採血管準備装置・システム	採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID	卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7	RFID検体情報 統括管理システム TRIPS アンテナボックス 採血管スタンド	全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID	
検体検査装置	血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル	ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-navi	電解質測定器 STAX-5 Inspire	＜その他＞ 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー測定システム 等	
消耗品等	各種採血管	ラベル	センサーカード	電極	ハルンカップ ＜その他＞ 採血管準備装置および検体検査装置の保守 等

テクノメディカの主要製品

Techno Medica

CONFIDENTIAL

採血管準備装置・システムの歴史

520

1991

ハンドラ
1本搬送

530

1993

ラック送り
機構搭載

550

1995

トレイによる
オールインワン

585

1998

省スペース
＋拡張性

686／787

2003

ケースコンセプト
の確立

888

2007

ケース入替自在
コンパクト化

8000RFID*

2011

RFIDラベル対応

8001RFID

2017

自動復旧機能
ダウンタイム削減

900

2020

プリンタエンジン
バックアップ強化

採血管準備装置・システムはテクノメディカが他社に先駆け1991年に発売、現在約2000施設以上で稼働しています。

*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

Techno Medica

2．2022年3月期 決算

2022年3月期 決算-1

Techno Medica

決算サマリー：増収増益を達成、営業利益率19%

（単位：百万円）

	2021/3期		2022/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売　上　高	9,040	100.0%	9,699	100.0%	+7.3%
営業利益	1,607	17.7%	1,861	19.1%	+15.8%
経常利益	1,629	18.0%	1,851	19.0%	+13.6%
当期純利益	1,153	12.7%	1,281	13.2%	+11.1%
1株当たり純利益(円)	135.8	—	150.9	—	+11.0%
1株当たり純資産(円)	1,756	—	1,859	—	+5.8%

2022年3月期 決算-2

Techno Medica

品目別売上高（全体）：採血管準備装置・システムが2ケタ増収

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	前期比
採血管準備装置システム	3,803	4,233	3,303	3,791	+14.8%
構成比	40.8%	43.2%	36.5%	39.1%	—
検体検査装置	620	570	740	561	△24.1%
構成比	6.6%	5.8%	8.2%	5.8%	—
消耗品等	4,908	5,006	4,996	5,345	+7.0%
構成比	52.6%	51.0%	55.3%	55.1%	—
合計	9,332	9,810	9,040	9,699	+7.3%

2022年3月期 決算-3

Techno Medica

対前期比決算のポイント・トピックス

売上高 増減要因	**採血管準備装置・システム** ⇒国内は大型更新需要の復調と中小型機が好調、海外は競争激化や案件遅延により伸び悩み ＜ 国内17%増、 海外9%減 ＞ **検体検査装置** ⇒ 新型コロナによる特需が一巡、国内外ともに平常化 ＜ 国内28%減、 海外15%減 ＞ **消耗品等** ⇒ 国内はコロナ影響から復調の兆し、海外は装置の稼働数増に伴い増加 ＜ 国内5%増、 海外23%増 ＞
販管費 増減要因	販売費及び一般管理費は微増（新型コロナ下の諸経費削減努力継続） 人件費は横ばい（採用人員の抑制）
トピックス	新開発　採血受付システム・採血採尿受付システムの販売開始

2022年3月期 決算-4

Techno Medica

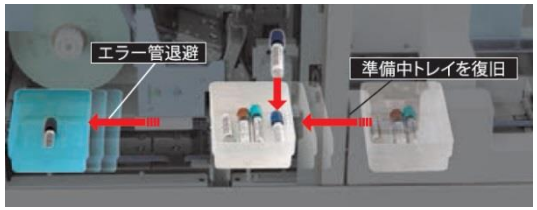
主力製品 BC･ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置
BC･ROBO
8001
RFID

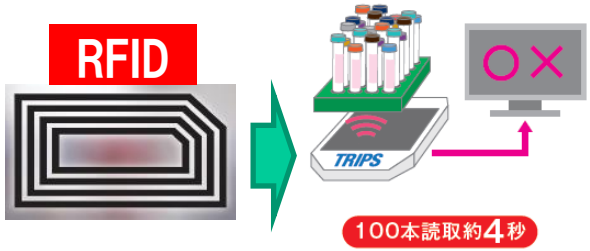
4つの新機能

TMConnections®
Iotを利用したテクノメディカの新しいサポート体制

IoTサポート
⇒ 自動起動機能 等



自動復旧
⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化
⇒ 検体トレーサビリティの強化

自動学習
⇒ メンテナンス時期のアラート 等

Techno Medica

採血業務支援システム Assist More

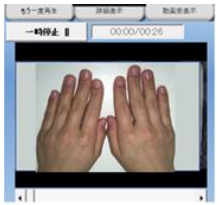
患者呼出

採血カルテ登録

採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

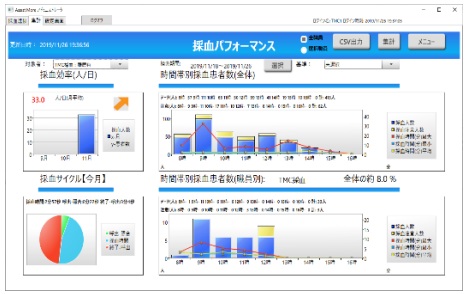
採血レコーダーシステム（オプション）



採血中の動画と音声を同時記録

- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

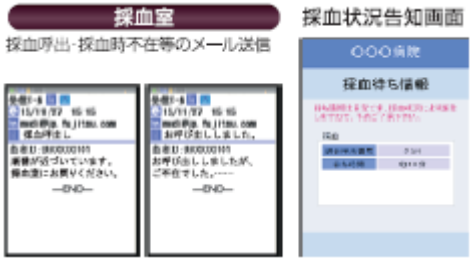
アドミニストレータ（オプション）



採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

Webメール採血呼出通知（オプション）



患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

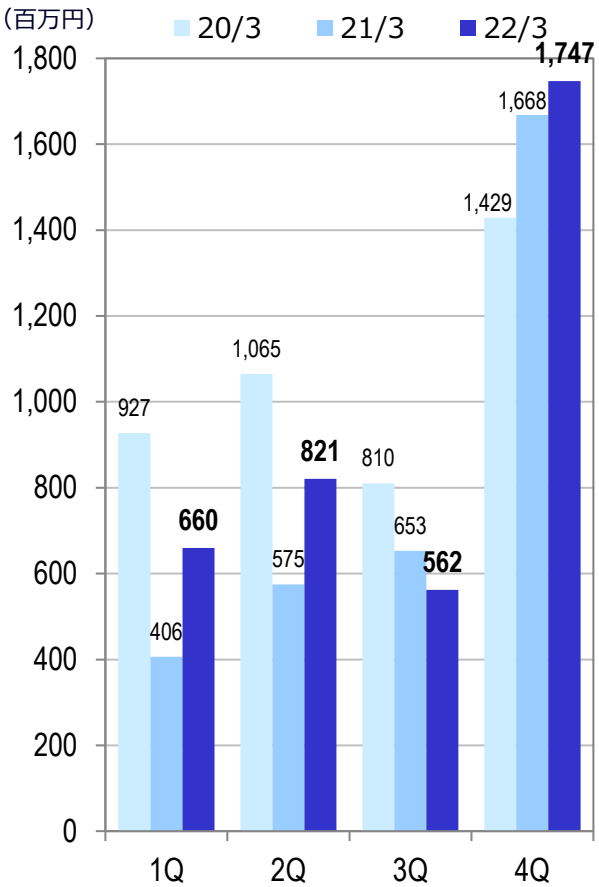
2022年3月期 決算-6

Techno Medica

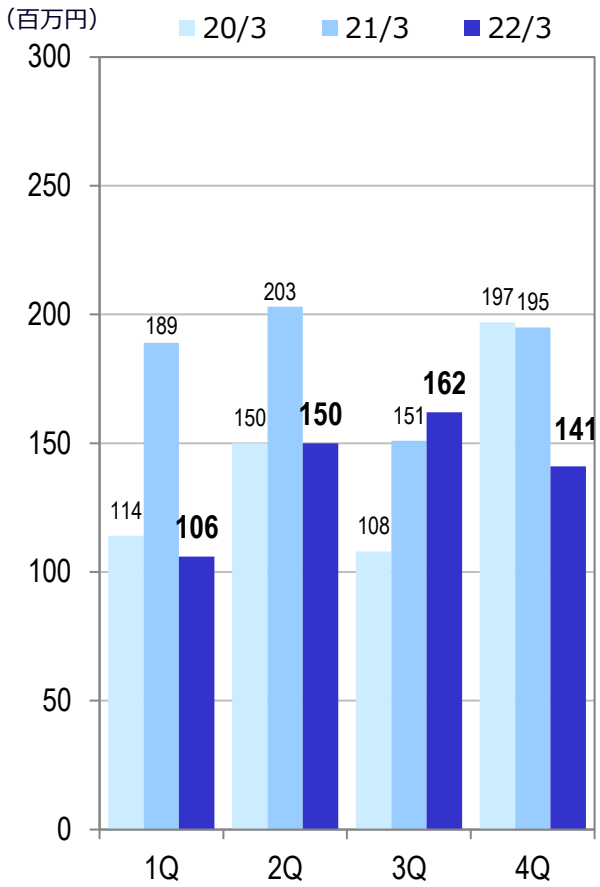
品目別売上高（四半期別）

採血管準備装置/消耗品が回復

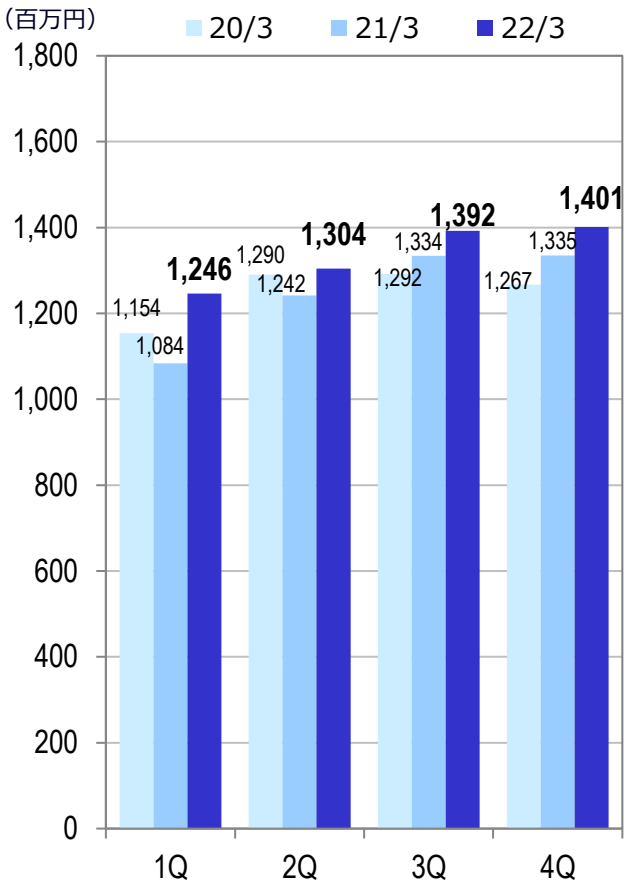
採血管準備装置・システム



検体検査装置



消耗品等



Techno Medica

採血管準備装置・システム－BC・ROBO納入施設数

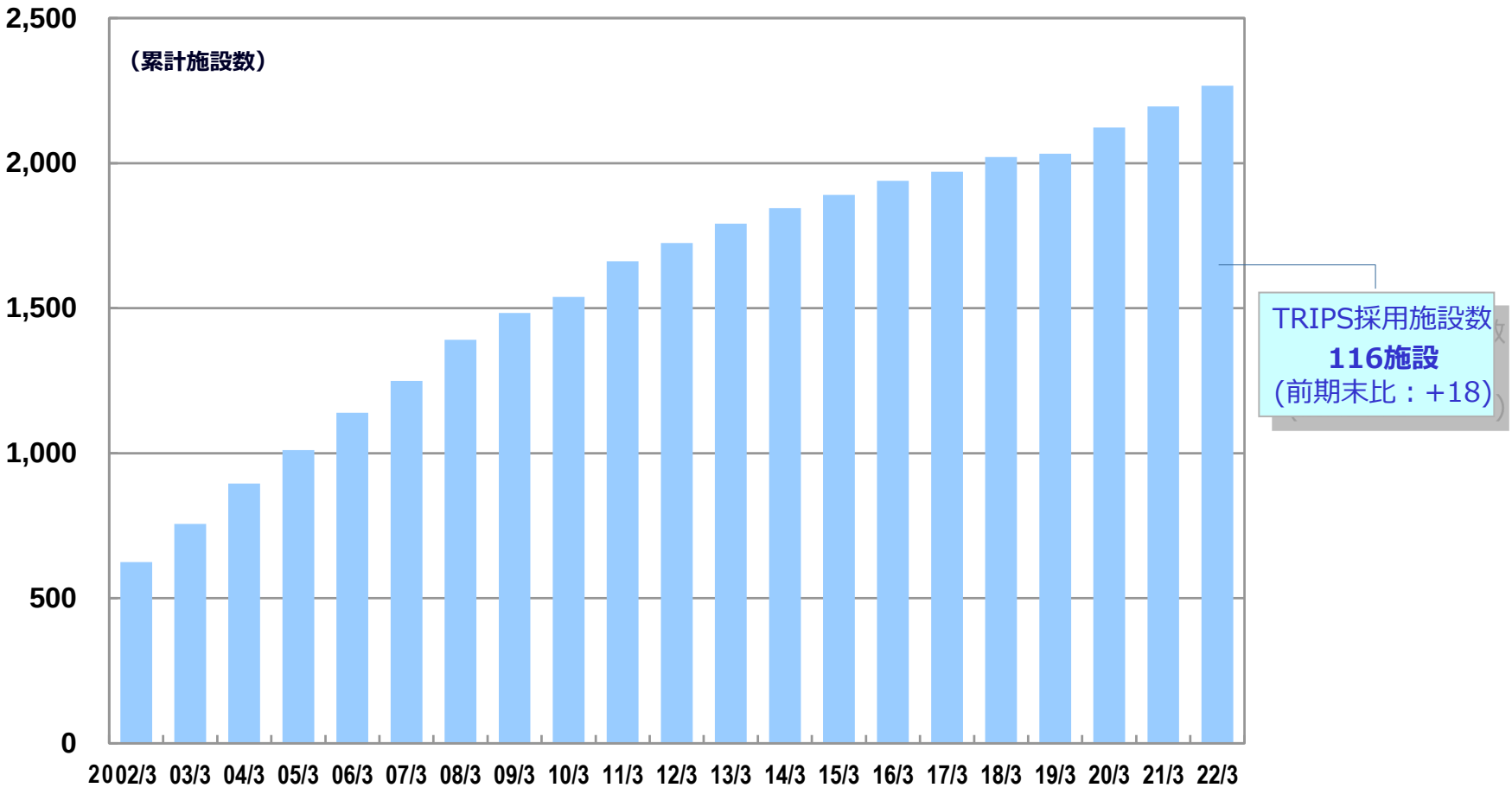
	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	前期差
納入施設数	313	429	364	438	+74
国内	163	271	224	314	+90
うち 新規	34	90	73	71	△2
うち 更新	129	181	151	243	+92
輸出	150	158	140	124	△16

・国内：新規導入は71施設、引続きBC・ROBO7がけん引
更新需要は大型機（BC・ROBO-8001RFIDや
BC・ROBO-900）を中心に取込み

・輸出：小型機を中心に海外需要を掘り起こし

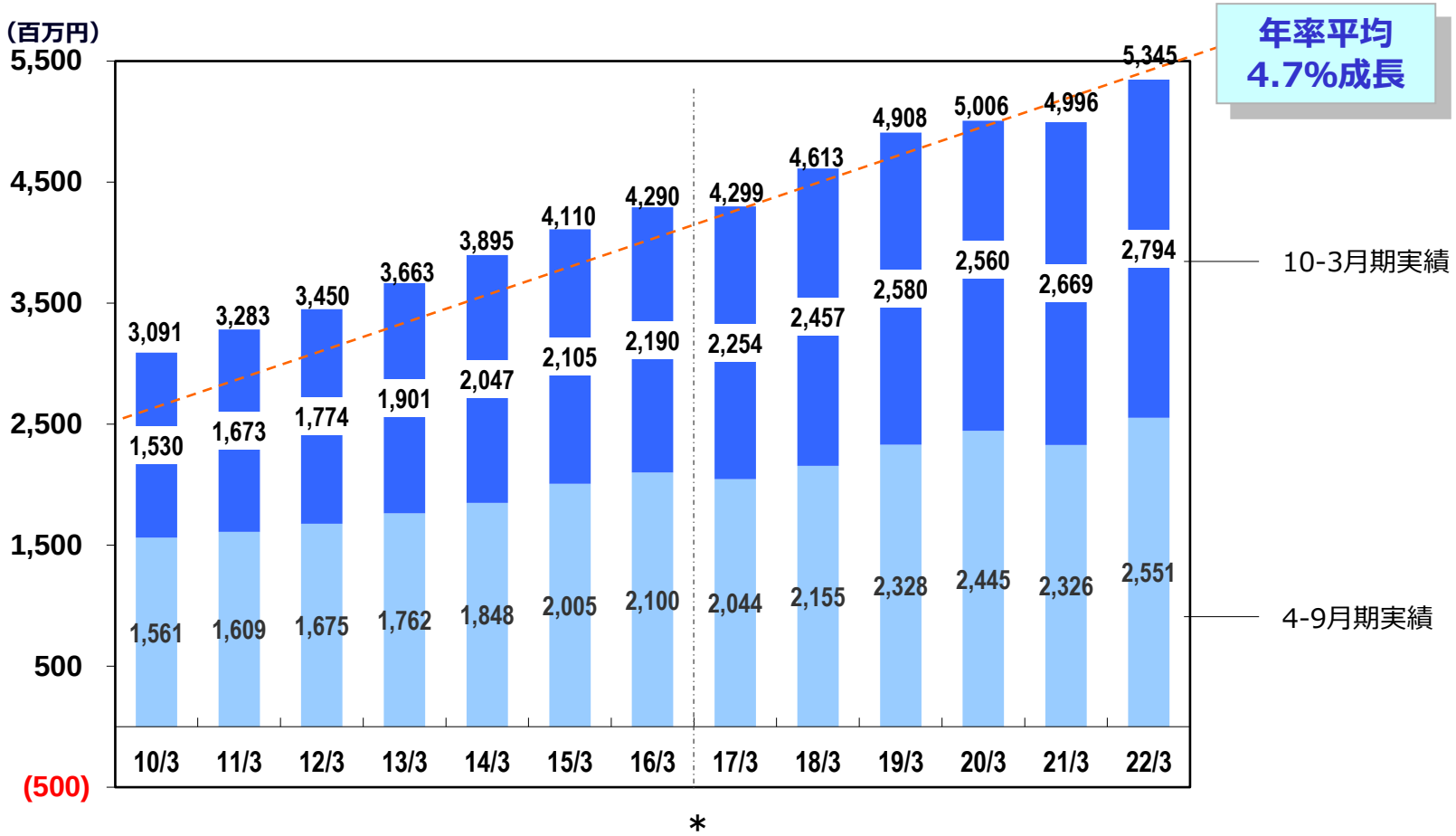
Techno Medica

採血管準備装置・システム－国内納入施設数の推移



Techno Medica

消耗品等（含む保守料）の売上高推移



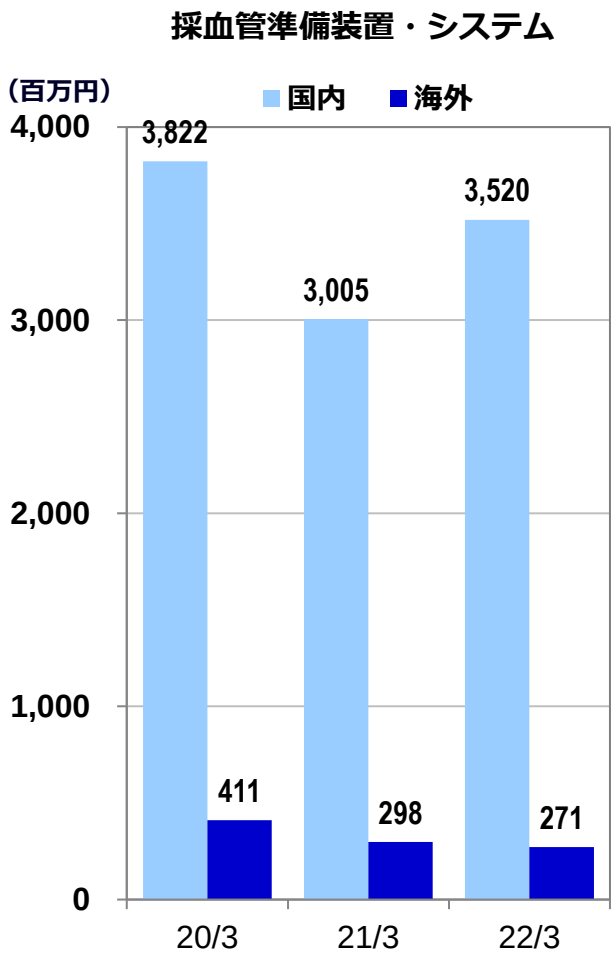
＊17/3期より保守料の計上方法を変更

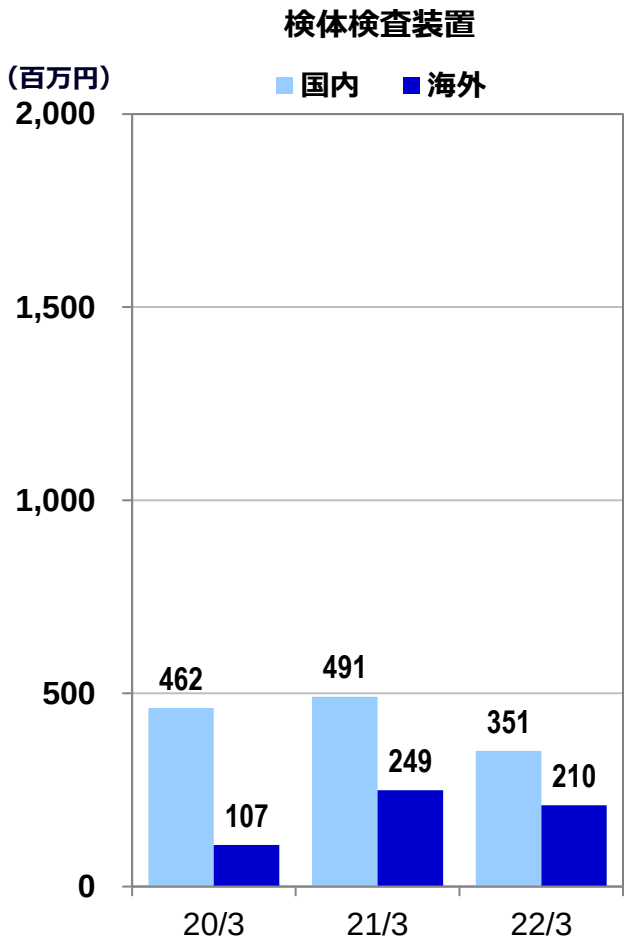
2022年3月期 決算-10

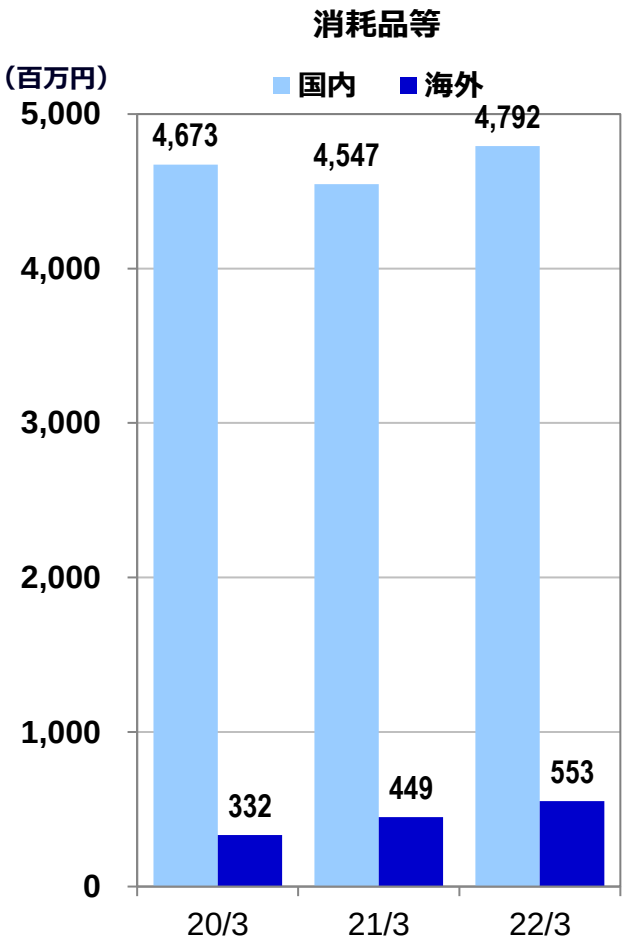
Techno Medica

品目別売上高（国内・海外別）

国内 採血管準備装置・システムが増加、
消耗品は国内・海外ともに好調



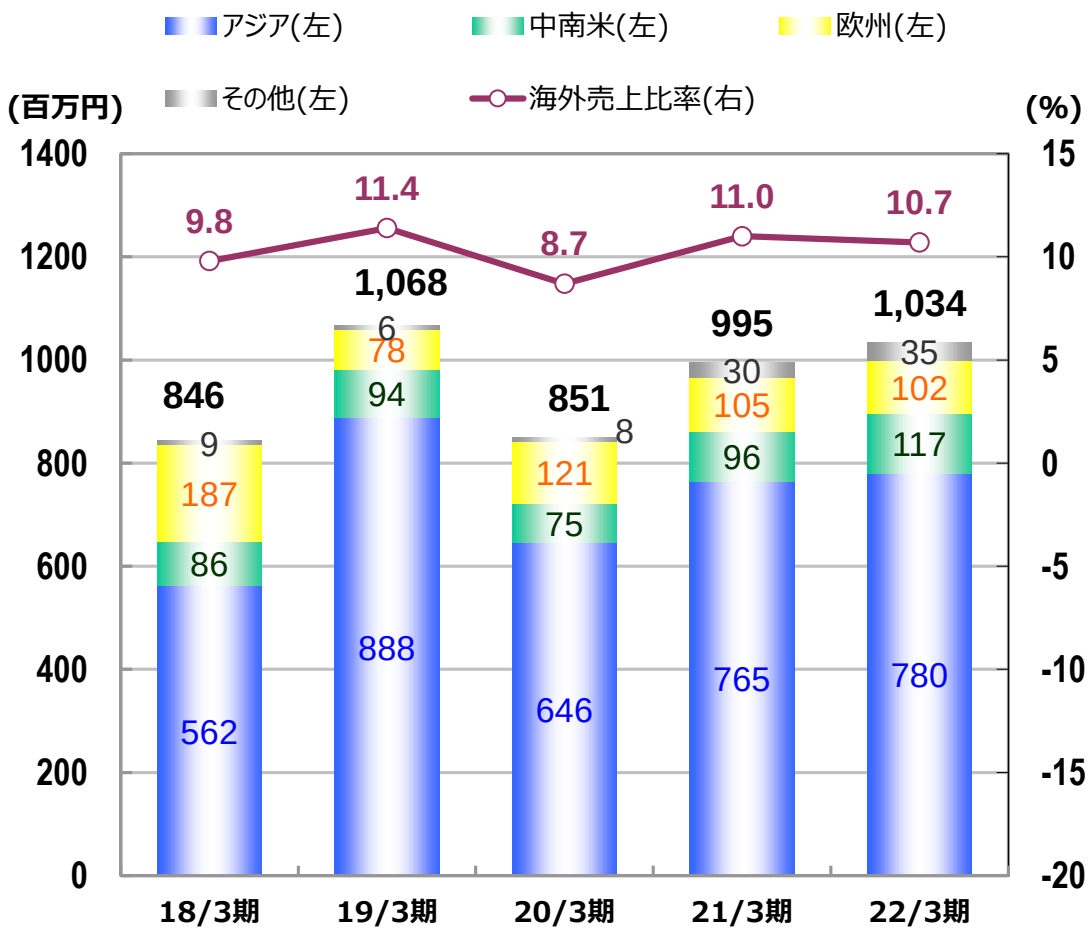




2022年3月期 決算-11

Techno Medica

海外売上高…世界44ヶ国へ販売



[2022/3期]

採血管準備装置・システム
…新型コロナの影響により販売延期を余儀なくされる案件が多かった

検体検査装置
…新型コロナの影響による緊急検査用途の装置の需要が一巡

消耗品等
… 装置売上増に伴い増加

2022年3月期 決算-12

Techno Medica

要約損益計算書

（単位：百万円）

	2021/3期		2022/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,040	100.0%	9,699	100.0%	+7.3%
売上原価	4,585	50.7%	4,881	50.3%	+6.4%
売上総利益	4,454	49.3%	4,817	49.7%	+8.1%
販売管理費	2,846	31.4%	2,955	30.4%	+3.8%
営業利益	1,607	17.7%	1,861	19.1%	+15.8%
営業外損益	22	—	△10	—	—
経常利益	1,629	18.0%	1,851	19.0%	+13.6%
特別損益	19	—	0	—	—
法人税、調整額等	469	—	569	—	—
四半期純利益	1,153	12.7%	1,281	13.2%	+11.1%

【営業利益】 増収に伴い、利益も改善し増益となった。

Techno Medica

要約貸借対照表【資産の部】

（単位：百万円）

	2021/3期末		2022/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	15,470	88.1%	16,472	89.0%	+1,002
現預金	10,139		11,523		+1,384
売上債権	3,605		3,652		+47
棚卸資産	1,646		1,229		△417
その他流動資産	80		68		△12
固定資産	2,083	11.9%	2,035	10.9%	△48
有形固定資産	1, 564		1,492		△72
無形固定資産	23		33		+9
投資等	495		510		+15
資産合計	17,554	100.0%	18,508	100.0%	+953

2022年3月期 決算-14

Techno Medica

要約貸借対照表【負債・純資産の部】

（単位：百万円）

	2021/3期末		2022/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,384	13.6%	2,630	14.2%	+245
買入債務	1,134		1,282		+148
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,249		1,347		+98
固定負債	209	1.2%	227	1.2%	+18
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	209		227		+18
負債合計	2,594	14.8%	2,858	15.4%	+263
純資産合計	14,960	85.2%	15,650	84.5%	+689
負債・純資産合計	17,554	100.0%	18,508	100.0%	+953

2022年3月期 決算-15

Techno Medica

要約キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2021/3期	2022/3期	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	825	2,062	+1,237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△153	2,489	+2,642
財務活動によるキャッシュ・フロー	△415	△598	△183
現金・現金同等物の増加額	256	3,953	+3,697
現金・現金同等物の期首残高	7,313	7,570	+256
現金・現金同等物の期末残高	7, 570	11,523	+3,953
研究開発費	433	405	△27
設備投資実施額	29	65	+35
減価償却実施額	120	120	0

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、今後も研究開発投資、生産設備投資、M&A投資等に活用を検討

2021年度新発売

Techno Medica

NEW

採血受付システム　AI-5、採血採尿受付システム　AI-500 RFID

新開発　2021年より発売開始しました

採血受付システム（ICカード対応）　AI-5

患者様の入室情報を正確に管理します。
待合混雑を解消します。
医療施設に特化したスマートな装置です。

採血採尿受付システム（ICカード対応）AI-500　RFID

高機能で、操作性に優れた受付システムです。
フレキシブルなユニット構成が選べます。
顔認証システム　等　バリエーションが豊富です。

3. 2023年3月期業績見通し

今期業績予想-1

Techno Medica

2023年3月期 業績見通し　売上100億円、営業利益15億円

（単位：百万円）

	2022/3期		2023/3期（予）		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	10,000	100.0%	+3.1%
営業利益	1,861	19.2%	1,500	15.0%	△19.4%
経常利益	1,851	19.1%	1,500	15.0%	△19.0%
当期純利益	1,281	13.2%	1,050	10.5%	△18.1%
1株当たり純利益(円)	150.9	—	123.6	—	—
1株当たり配当金(円)	60.0	—	55.0	—	—
研究開発費	405	4.2%	700	7.0%	+72.8%

売上高は100億円を目指す。利益はコロナ後の事業活動再開による販売管理費増・新規開発費増により、対前期減益の見込み。

今期業績予想-2

Techno Medica

2023年3月期 品目別売上高見通し

（単位：百万円）

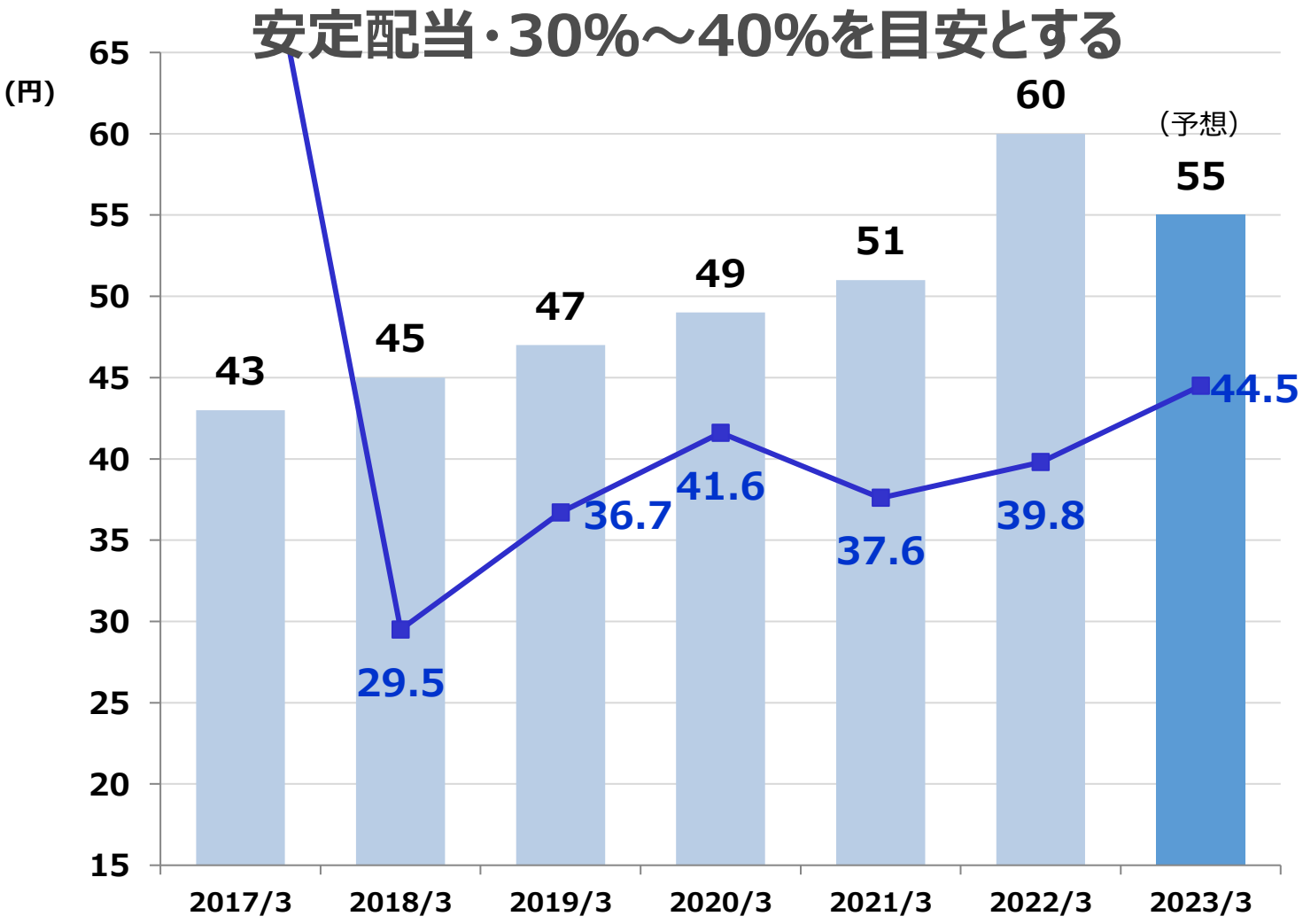
	2022/3期		2023/3期（予）		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	10,000	100.0%	+3.1%
採血管準備装置・システム	3,791	39.1%	4,233	42.3%	+11.6%
検体検査装置	561	5.8%	553	5.5%	△1.4%
消耗品等	5,345	55.1%	5,213	52.1%	△2.5%

採血管準備装置・システムはシステムソリューションを強化、増販の見通し

株主還元方針

Techno Medica

【配当性向の目標】

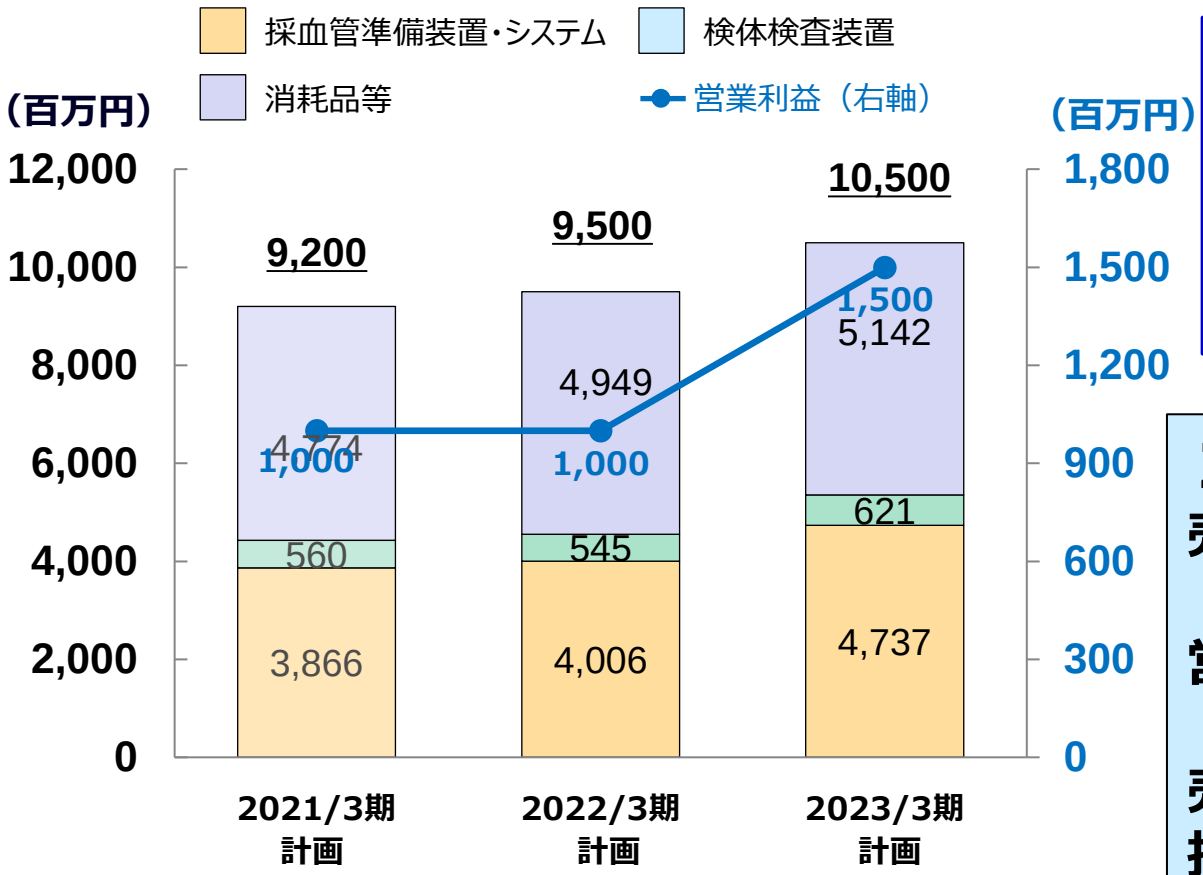


Techno Medica

4. ・2020年中期経営計画・進捗
・2030長期ビジョンの策定

Techno Medica

売上高（セグメント別）・利益 計画



売上高 営業利益率	10.9%	10.5%	14.3%

【3か年累計】

売上高：292億円

営業利益：35億円

※海外売上高：53億円

２年間累計実績

売上高１８７億円
（進捗率64%）、
営業利益３４億円
（進捗率99%）、
売上・利益共に順調に推移

1. 2030長期ビジョン

(長期ビジョン制定にあたり)

2030長期ビジョンを制定しました。

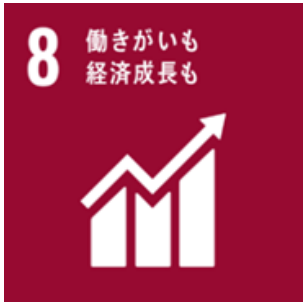
事業活動を通して、健康、医療分野で社会に貢献していきます。

2022年には創業35年を迎えます。当社の更なる安定的な成長のために、変えないもの、変わらなければならないものについての議論を行い、当社の「経営理念」を実現するために今後何に取り組み、如何に社会に貢献していくべきか、当社の10年後のありたい姿としての、2030長期ビジョンを制定致しました。

Techno Medica

2. 10年後の社会像

SDGsへの当社の予想される貢献分野

③保健	⑦エネルギー	⑧成長・雇用
		
⑨イノベーション	⑪都市	⑬気候変動

2030長期ビジョン

Techno Medica

(当社の取組内容)

- 使用する原材料の削減
- ロボットシステム普及に貢献する技術や製品の開発、ソリューションの提供
- 消耗品事業のプラスチックから紙製品への転換
- 感染予防対策に資する製品の開発、提供
- 自社ビル内節電策、太陽光発電の活用
- 産業廃棄物のミニマム化
- 安定調達、供給のための構造改革
- 「現場力」に基づいた最適生産体制の確立
- 働きやすい職場環境づくり

Techno Medica

3. 経営理念・基本方針

経営理念・基本方針

Techno Medica

経営理念

「わたしたちは、健康、医療分野でのオリジナリティあふれる
オンリーワンの製品・サービスを提供し、社会に貢献します」

（基本方針）

1.採血管準備装置・システム及び血液ガス装置は、信頼性、品質の向上を図り、価値あるサービスを提供することにより、お客様の期待に応えます。

2.新製品の開発（※）により、新たな事業の創造を目指します。

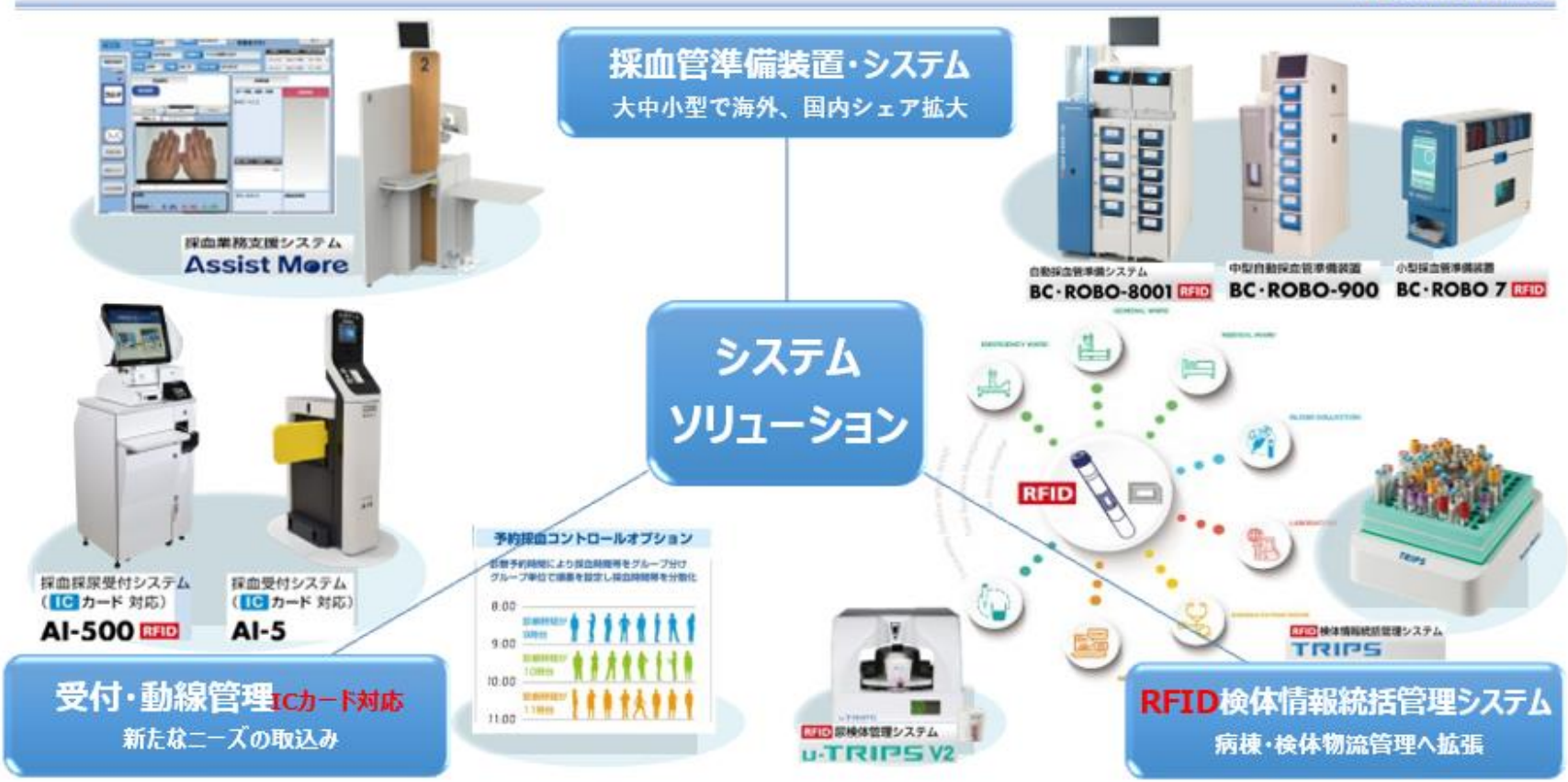
3.これからも日本国内にとどまらず、当社の技術力を生かし、世界に貢献する企業を目指します。

※キーワードは「在宅医療」「予防医学」「先制医療」「POCT（臨床現場即時検査）」な

Techno Medica

4. 2030年 社会に貢献する事業領域ビジョン

（1）採血管準備装置・システム



2030長期ビジョン

Techno Medica

（2）検体検査装置

Techno Medica

Techno Medica

（3）開発への取り組み

Techno Medica

2030

＜2030年　医療を持続可能に＞
・医療と共に、人財と組織の成長へ
・医療課題の解決に寄り添った製品開発へ

6 安全な水とトイレを世界中に

医療を患者それぞれに、より身近で持続可能なものに
・医療課題からライフサイエンスまで貢献する製品を創造する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ロボット技術応用で検体検査の発展に貢献する
・慢性的な人手不足の解消や新しい医療安全を医療現場へ

3 すべての人に健康と福祉を

測定性能・供給安定性重視の分析装置と新センサー開発
・先の見えない時代だからこそ本質を追求します。
・国内メーカーの強みである安定サプライチェーン構築

12 つくる責任 つかう責任

変化する医療環境に、変化する次世代採血管準備システムへ
・質の高い医療安全と効率の両立化を目指します
・採血管準備から検体移動把握・履歴管理へと領域拡大

Techno Medica

5. 社会に貢献するための３つの基本戦略

１０年後の社会に貢献するためのキーワードは、イノベーション、海外展開、既存事業強化です。

（1）イノベーションの追及

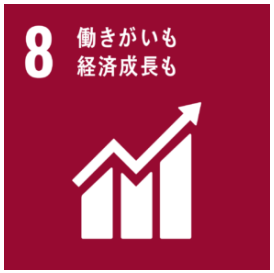
・顧客目線でのイノベーションの強化
・研究開発、システムソリューションによる提案力の強化

（2）海外展開の拡大

・グローバルな拡大を目指し、自社での地域拡大および海外代理店の活用による販路の強化

(3)既存事業強化

・AI、IoT等の先端技術活用による次世代機の開発
・消耗品拡大への生産効率化
・サプライチェーンを含めたコスト合理化



Techno Medica

6. 2030経営数値目標

（1）売上高

（イノベーションの追求）
新製品の投入
新事業・次世代事業
+10億円

（既存事業強化）
競争力強化
＋30億円

（海外展開の拡
＋20億円

2020年度売上高
90億円

2030年度売上高
150億円

2030長期ビジョン

Techno Medica

（２）株主還元方針

当社は、株主の皆さまへの利益還元を重要施策の一つと位置付けし、経営環境、業績に裏付けられた成果の配分と、内部留保の決定を行うことを基本方針としています。

これまで安定配当を維持するとともに、配当性向30%～40%を目安に実施して参りました。今後　中長期的には、配当性向30%～40%の目安に加え、総還元性向50%を実現することを目指してまいります。

＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。